ともかき

第２２号

発　行：妻垣神社社務所
宇佐市安心院町妻垣 203 番地
発行日：令和２年８月１５日
電　話：0978-44-2519
http:www.tumagakijinnjya.com

新型コロナウイルス早期収束を願って
夏越大祓式で茅の輪くぐり

今年の春、中国武漢で突如発生した新型コロナウイルスは、またたく間に世界中へと広がり、我が国でも多くの人が罹患され、なかには命を落とされている方もいらっしゃいます。現在、この疫病に対して官民挙げてワクチンの開発や感染防止対策など様々な対策が講じられていますが、その中において神社が出来ることは何かと考えますと、それはかつて先人達がおこなってきたように神仏に祈ることではないでしょうか。

当社では三月の祈年祭より恒例祭に併せて鎮静祈願祭を執り行ない、早期の収束、そして氏子の皆様を始め多くの人が感染しないよう祈願しております。去る六月末の夏越大祓式には、コロナに罹ることなく、無病息災にお過ごしになられるよう「茅の輪」を初めて設置。疫病を退け、罪穢れを祓うとされる茅の輪は、期間中多くの方にくぐっていただきました。また社頭では特別に奉製した「疫病消除神札」「夏越大祓神札」を数量限定で、参拝者へお頒ちしました。

コロナウイルスは他の疫病同様、根絶することは難しくとも、必ずや打ち勝つことができると信じております。自粛生活も長期戦にもなると人の心も荒んでいくばかりです。私たちは相手を思いやって行動し、自粛はしても萎縮せず暮らしていく必要があるのではないでしょうか。

疫病を祓う茅の輪とは？

その昔、嵐の夜に一晩の宿を所望したスサノオノミコトに対し、蘇民将来（そみんしょうらい）は貧しいながらも粟飯を炊き、手厚くもてなしました。スサノオはその御礼にと「この先、疫病が流行れば“蘇民将来子孫也”と言って、この茅の輪を腰に付けていなさい」と告げ、立ち去りました。
その後、疫病が起こり、人々は悉く死に絶えましたが、蘇民将来の家族だけは、茅の輪のおかげでその難を逃れることができたという故事に由来します。

茅の輪はみずみずしい茅を一本一本選り分け、祈念を込めながら作りました。

茅が入った夏越大祓神札

我が国の疫病との戦い

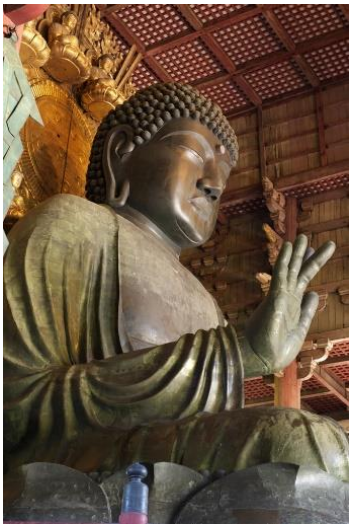
～多くの犠牲の上に、今の私たちがある～

我が国最初のパンデミック　～伊勢神宮・大神神社は疫病がきっかけ～

人と感染症の戦いは今に始まったものではありません。我が国においても疫病との戦いは古く、『日本書紀』の第 10 代崇神天皇即位五年（BC93）の段に「國内多疾疫、民有死亡者、且大半矣」とあり、国内にて疫病が蔓延し、国民の半分が亡くなったと記されています。疫病によって国は荒れ、百姓は流離し、その勢いは天皇の徳をもってしても収めることができなかった程です。

宮中には古くより天照大神・倭大国魂（ヤマトノオオクニタマ）の二神を祀っており、天皇は昼夜問わず神に祈りを捧げました。二神の力は強く、天皇は共に住むことが出来なくなったため、宮中より遷して祀ることとしました。しかしそれでも疫病が収まりません。（天照大神は大和の笠縫邑へと遷し、第 11 代垂仁天皇の御代に伊勢へと遷り、今の伊勢神宮となりました。）

ある夜、天皇の夢枕に大物主神（オオモノヌシノカミ）が現れ、「我を祀れば疫病はたちまちに無くなり、国は栄えるであろう」と告げられました。（この時、大物主神が祀られた場所こそ奈良県桜井市の大神神社です。）その結果、即位七年、疫病は徐々に収まりだし、国内は平穏となり、秋には五穀豊穣となって人民は豊かになりました。



奈良の大仏の造立　～人類史上根絶できた疫病・天然痘～

奈良時代には天然痘が大流行しました。この時も国民の大半 150 万人が亡くなりました。この疫病は国外から様々な文化や技術がもたらされ豊かになる一方、遣唐使・遣新羅使といった人を通じて国内に入ってきました。

第 45 代聖武天皇は仏教にその救いを求め、全国に国分寺を建立。都にはその中心となる盧舎那仏を鋳造することとしました。東大寺奈良の大仏です。大仏を造る国家的一大事業はのべ 200 万人の人が従事しますが、思うように進まず、朝廷は宇佐宮に勅使を使わせ八幡神より事業助成の託宣を賜った結果、大仏は見事完成したとされます。（昭和 55 年、天然痘は人類史上唯一根絶できた疫病となりました。）

スペイン風邪の流行　～新たな生活習慣の始まり～

20 世紀、世界的流行となったのが大正時代のスペイン風邪です。世界で 5 億人もの人が感染し 4 千万人が死亡。国内でも 45 万人もの人が亡くなりました 。この安心院でも数千人が感染し、多くの死者が出たそうです。

この結果、風邪の時にはマスクを着用する、手洗いをするという生活習慣が始まりました。当時の人には馴染みのないことでしたが、今では当たり前のこととなっています。今回、政府より提言された新しい生活習慣も時間と共に当たり前になっていくのかもしれません。

世界では天然痘、コレラ、ペスト、結核と様々な疫病が流行し、その度に多くの人がその犠牲となってきました。今を生きている我々はこれら疫病に打ち勝ち、生き残った先人達の子孫たちです。まずはこの奇跡に感謝すると共に、かつてのように協力し合って、ウイルスを克服しなければならないと考えます。

平和祈願祭(慰霊祭)
秋季大祭の規模縮小

本年度の祭典は参列者の縮小など、コロナウイルス感染防止対策をおこなって実施しております。

平和祈願祭(慰霊祭)は、高齢の遺族会や中学生と、幅広い世代の参列となるため、本年は総代のみで執り行うことと致します。

また秋季大祭につきましては、今後、総代会にて要協議して参りますので、詳細につきましては前日の新聞折込チラシでお知らせ致します。

平和祈願祭 8 月 23 日　／　秋季大祭 10 月 24・25 日

明治神宮の戦後の復興に
妻垣神社の氏子が自転車で東京に駆けつけた

私は農村の一青年で御座居ます

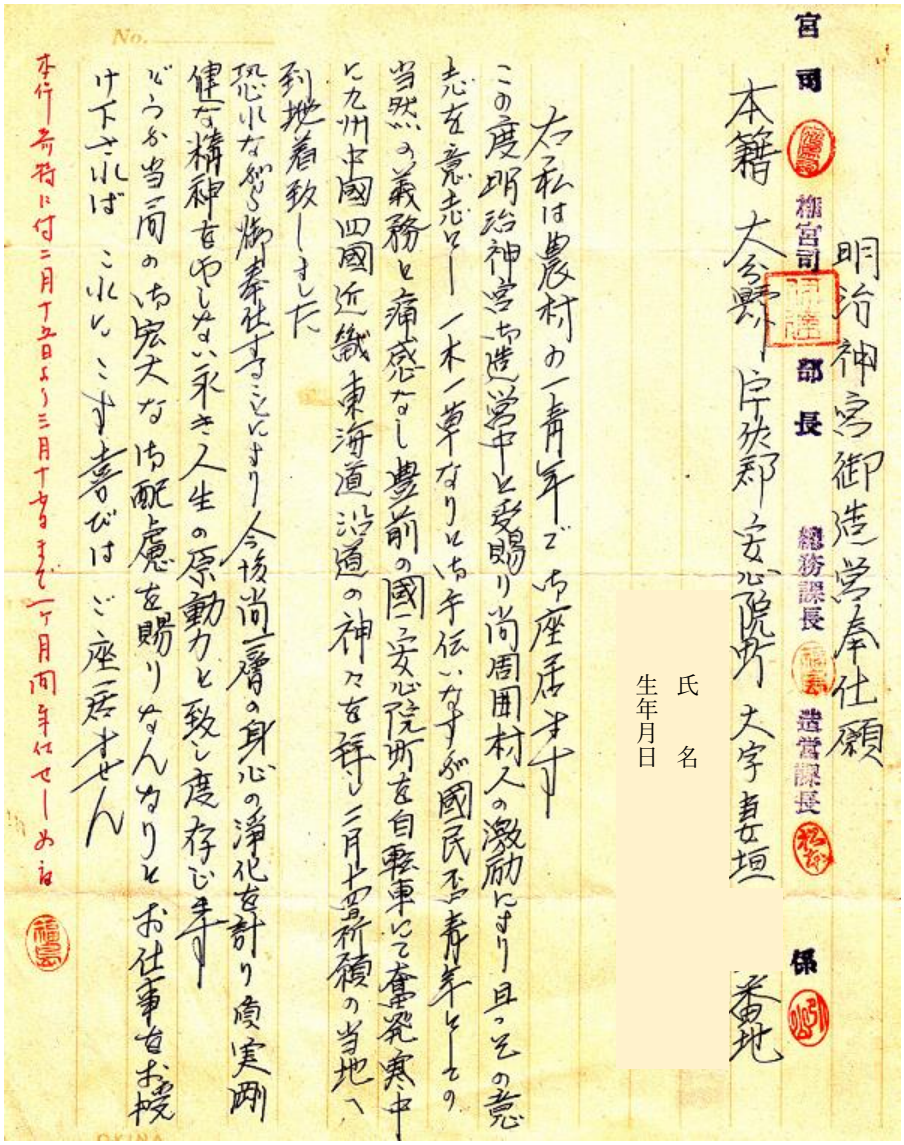
この書き出しで始まるこの文書は、昭和三十三年、明治神宮戦後復興事業に従事した妻垣神社の氏子が出したもので、現在、神宮にて大事に保管されています。

神宮の復興には全国各地より十一万人の青年たちが勤労奉仕に駆けつけました。その中にはこの青年の姿もありました。青年は二月の寒風の中、二週間かけて自転車で東京まで赴き、奉仕活動を願い出ました。その熱意に心を打たれた神宮の職員は、特例として宿舎と食事を提供し、一ヶ月に及ぶ奉仕を認めました。青年の印象が強かったこともあり、今でも神宮では語り草となっています。地元にこのような気骨な青年がいたことに我々は誇りに思うと共に、このような思いで日々の神明奉仕に務めねばと思う次第です

明治神宮では青年のことを後世に語り継ぐべく、これまでに『明治神宮戦後復興の軌跡』（平成二十年刊）や社報「代々木」にて紹介してきました。そして今年、創建百年を記念して、新たに記念誌を制作されるそうで、氏神である当社に取材依頼がありました。青年の足跡を訪ね、彼を育んだ安心院の風土や当社の活動を調査したいとのことです。詳細がわかり次第お知らせ致します。

東京大空襲による社殿焼失と再建

昭和二十年春、米軍の襲撃により、帝都東京は焼け野原となり、当然のことながら、神宮の社殿も焼失しました。終戦後、街の復興が進むにつれ、社殿再建の気運が起こり、東京タワーが完成する昭和三十三年に新たな社殿が完成しました。



宮司　権宮司　部長　総務課長　造営課長　係

明治神宮御造営奉仕願

本籍　大分縣　宇佐郡　安心院町　大字妻垣　番地

氏　名

生年月日

右私は農村の一青年で御座居ます

この度明治神宮御造営中と承賜り尚周囲村人の激励により且つその意志を意志し一人一草なりとも手伝いなすべく國民運青年団の当然の義務と痛感なし豊前の國安心院町を自転車にて奮発寒中と九州中國四國近畿東海道沿道の神々を拝し二月十五日祈願の当地へ到地着致しました

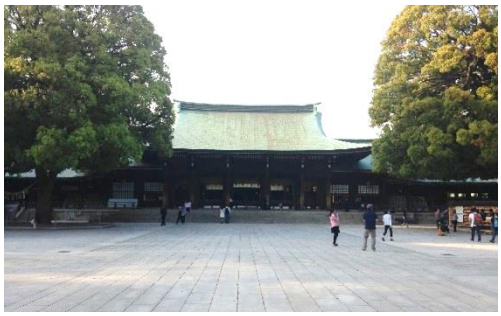
恐れながら御奉仕致すことにより今後尚一層の身心の浄化を計り愈愈剛健な精神を忘れない永き人生の原動力と致し度存じます

どうか当局の御宏大なる御配慮を賜りなんなりとお仕事をお授け下されば　これにまさる喜びは　ご座居ません

本件奉仕に付二月十五日より三月十日まで一ヶ月間奉仕せしめ給

昭和 30 年頃の安心院。現家族旅行村より盆地を望む。

再建された明治神宮社殿。全国より材木が提供された。



明治神宮…東京の渋谷に鎮座し、正月の三が日には 300 万人以上の参拝者が訪れる日本を代表する神社。社殿を取り囲む広大な人工の杜には希少な動植物が生息し、都心のオアシスとなっている。

御祭神は第 122 代明治天皇と昭憲皇太后。大正 9 年（1920）11 月に国民の総意により社殿が創建され、今年で創建 100 年となる。

昨年に引き続き今年もまた妻垣神社がテレビで紹介されました!!

NHKBSプレミアム

【新日本風土記 松本清張と鉄道の旅】

昨年は昭和の巨人松本清張が誕生して一一〇年という年でした。それに伴い各メディアより取材がありました。清張と当社は作家になる以前から交流があり、その当時の清張の手紙が残っています。また昭和三十七年には古代史・邪馬台国ブームを起こした「陸行水行」の舞台になりました。

今年の五月にはNHKBSプレミアムの人気番組「新日本風土記」にも取り上げられ、放送後は当社を訪ねて来られる人が多く、映像で流れた元宮まで詣でる方もいらっしゃいました。

『日本書紀』編纂１３００年を迎えて

令和２年（2020）は『日本書紀』が編纂されてより 1300 年の節目の年となります。第 40 代天武天皇が正史編纂を命じられ、舎人親王たち数十人が 39 年の歳月をかけておこなった国家事業で、養老４年（720）に完成ました。

紀は神代より第 41 代持統天皇までの歴史が漢文の編年体で記述されており、そのなかでここ安心院に由来する記述が２カ所あります。①神武天皇の東征、②第 12 代景行天皇の熊襲征伐です。

①については、言わずとした当社元宮である一柱騰宮(アシヒトツアガリノミヤ・古事記の表記は「足一騰宮」)の話です。東国大和へ向けて日向を出発した皇軍が最初に立ち寄った場所こそ、この地とされ、菟狭津彦（ウサツヒコ）が大御饗（オオミアエ）を奉ったとあります。

また天皇御自ら仲立ちとなられ、侍臣天種子命（アメノタネコノミコト）と菟狭津媛（ウサツヒメ）の婚儀が執りおこなわれました。この故事は後にこの地を「妻垣」と呼ぶ由来となりました。②については次号にて紹介します。

「日本書紀」 全 30 巻、系図１巻

『日本書紀』

神武東征より 原文

行至筑紫國菟狭。菟狭者地名也。此云宇佐。 時有菟狭國造祖。號曰菟狭津彦。菟狭津媛。乃於菟狭川上、造一柱騰宮而奉饗焉。一柱騰宮、此云阿斯毘苔徒鞅餓離能宮。

是時、勅以菟狭津媛、賜妻之於侍臣天種子命。天種子命、是中臣氏之遠祖也。

一柱騰宮は共鑰山 8 合目に鎮座する。市内には他に宇佐神宮境内、排田地区の２ヶ所の推定地がある。

令和御大典事業御奉賛のお願い

天皇陛下御即位を祝して、昨年秋より御大典記念事業を計画し、御奉賛を募っております。この間、多くの方より真心こもった奉賛金を頂戴し、感謝に堪えない次第です。しかしながら、まだまだ目標の金額までには達しておりません。引き続きご協力の程お願い申し上げます。

◎記念事業：南門の修繕工事、参道提灯の支柱及び配線取替工事

◎奉賛期間：令和元年十月一日～令和三年三月三十一日

奉賛金・記念奉納のご希望の方は神社までお問い合わせ下さい。（TEL 0978-44-2519）